

## 平成 19 年度電気規格調査会規格委員総会（表彰式）の報告

電気規格調査会  
標準化推進室

7月26日 午後、グランドヒル市ヶ谷「珊瑚の間」にて平成19年度電気規格調査会規格委員総会を開催いたしました。

規格委員総会では、平成19・20年度電気規格調査会2号委員の改選結果が報告されると共に、平成19・20年度電気規格調査会規格役員が改選されました。また、平成17・18年度電気規格調査会事業報告と平成19年度の事業計画が報告されました。

引き続き、今回が2回目となる電気規格調査会功績賞、功労賞の表彰式が行われました。平成19年度電気規格調査会功績賞は、富田誠悦氏と竹内 南氏が各々受賞されました。また、平成19年度電気規格調査会功労賞は、四元勝一氏が受賞されました。受賞後、受賞者各々から謝辞挨拶も行われました。

電気規格調査会功績賞を受賞された富田誠悦氏は、人体ばく露に関する低周波電磁界の測定に早期から取り組み、その必要性が増した今日に、わが国発の国際規格提案が行われる基礎を築き、その規格の日本工業規格化にも貢献されました。取り組まれた「人体ばく露に関する低周波電磁

界測定方法」や「人体ばく露に関する家電製品等の電磁界測定方法」が国際標準規格として制定されると共に、これらの日本工業規格化に対しても原案作成委員会の委員長として大いに活躍されました。また、「電力品質測定方法」に関する国際標準規格制定に関してもエキスパートとして参画され、日本の電力系統でも適用できる規格作成に寄与されました。

電気規格調査会功績賞を受賞された竹内 南氏は、パワー半導体モジュール技術の発展・向上とその標準化推進に関し、わが国の中心的存在として活躍され多大な貢献をされました。取り組まれた電気規格調査会標準規格「絶縁ゲートバイポーラトランジスタ」や「MOS形電界効果パワートランジスタ」は、国際標準との整合化を図る一方、日本の実情を十分取り入れたものとなっており、日本国内で製造者のみならず、購入者にも広く利用されるようになりました。また、国際電気標準会議のコンビナトとして、日本の意見を国際標準規格に反映するように活躍されました。

電気規格調査会功労賞を受賞された四元勝一氏は、パワーエレクトロニクス技術分野、特に安定化電源装置技術の発展・向上とその標準化推進に関し、わが国の中心的存在として長年に亘り多大な貢献をされました。電気規格調査会では、長期に亘りパワーエレクトロニクス標準化委員会の委員として活躍され、特にITシステム用電源を中心に国内外の情報収集、活発な委員会活動によりタイムリーな規格開発に貢献されました。また、SC22E国内委員会の

委員長として標準化業務を指揮されると共に、この間、国際電気標準会議の日本代表委員として、日本の意見を国際標準規格に反映するように活躍されました。

写真1～5に電気規格調査会委員総会及び受賞風景を示します。



写真1 電気規格調査会 鈴木会長の挨拶



写真2 規格委員総会全体風景



写真3 功績賞 富田誠悦氏



写真4 功績賞 竹内 南氏



写真5 功労賞 四元勝一氏